

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

国家や社会を大きく変えていく 暗号通貨への入門書

『暗号通貨 vs. 国家—ビットコインは終わらない』

坂井豊貴（経済学部教授）著
SB新書 / 864円（2019年2月）



ビットコインをはじめとする暗号通貨（＝仮想通貨）に否定的な印象を持つ人も多いだろう。しかし著者は「暗号通貨は終わっていない。まだ始まったばかりだ」と断言する。「ブロックチェーンの生態系には、人間も機械も黄金もある」暗号通貨の社会はめっちゃくちゃ人間くさい」という章タイトルが示唆するように、暗号通貨は人々が情熱を注ぐにふさわしい「面白い」ものであると著者は語る。暗号通貨はどのように成立したのか？ それによって国家や社会はどのように変わっていくのか。現在起きていること、そしてこれから起きることを平易な文章で解き明かした入門書とも言える一冊だ。

教職員執筆の新刊

●渡辺靖（環境情報学部教授）著

『リベタリアニズム—アメリカを揺るがす自由至上主義』中公新書 / 864円（2019年1月）

●菊澤研宗（商学部教授）著

『成功する日本企業には「共通の本質」がある』朝日新聞出版 / 1728円（2019年3月）

●小倉孝誠（文学部教授）著

『逸脱の文化史—近代の〈女らしさ〉と〈男らしさ〉』慶應義塾大学出版会 / 2592円（2019年4月）

●柏端達也（文学部教授）ほか編著

『よくわかる哲学・思想』ミネルヴァ書房 / 2592円（2019年4月）

●荒金直人（理工学部准教授）編

『組織としての生命—生命の教養学15』慶應義塾大学出版会 / 2592円（2019年4月）

●岡山裕（法学部教授）ほか編著

『アメリカの政治』弘文堂 / 2808円（2019年5月）



慶應義塾この一冊

『アカデミック・スキルズ 実地調査入門—社会調査の第一歩』

慶應義塾大学教養研究センター監修
鈴木亮子（経済学部教授）ほか著
慶應義塾大学出版会 / 1728円（2015年9月）



大学での学びは与えられたテキストを読むだけではなく、自ら「調べる」ことが必要となる。最近ではネット検索でも多くのことがわかるが、実地に向いて調査したり、人の話を聞いたりしなくてはわからないことも多い。本書は初めて社会調査を行う学生を対象に、調査の計画・実施とデータ分析の基礎について多くの事例を交えて解説。データの収集法や分析法、成果をレポートや発表資料にまとめる際のポイントなど、一連の流れをわかりやすく説明している。